

事業名称	地域の歴史を伝える－中学校と連携して－
団体名・代表者	香寺歴史研究会・牛尾 隆彦
協働の相手方	企画政策推進室、学校指導課、姫路市立香寺中学校

目的	本会は町民の書いた『香寺町史 村の記憶』を書き続けることで、地域の歴史遺産を再発見し、地域づくりに活かしていきたい、と活動を続けている。地域で次の世代に歴史を伝えることが難しくなっている現在、地域の中学校と連携をして、中学生による地域調べ学習に協力することで、新しい伝える場を生み出したい模索している。そしてこの地域調べ学習で、中学生が地域の一員として生きていることを自覚してくれることを期待している。
内容	1. 全町内の「川と地名・暮らし」を調査し、かつての川と暮らしの関わりを記録する。 2. 中学生への出前授業（「地域の歴史と文化」について）を行う。 3. 中学生の「地域調べ学習」に協力する。 4. 会員と中学生の研究成果を共に収録する『新・ムラの生活史 Ⅲ』を発行する。
事業経過	会員は夏から秋にかけてそれぞれの地域で川と暮らしの関わりを調査し、伝える内容を豊かにする。夏休み前に会員が中学生の地域調べ学習の手引となるように、出前授業を行う。夏休みに入ると、生徒は興味を持ったテーマをもって地域に入り、会員など地域の人にインタビューをし、さらに研究を深める。2月に報告会を開いて、会員と生徒それぞれがまとめた研究成果を発表し、公開した。それぞれの研究成果は記録し後世に伝えるために、報告書として『新・ムラの生活史 Ⅲ』を発行する。
事業の効果	1. 活動報告会を開いて、地域で地域の歴史を伝えることの意義を広く伝えることができたこと。 2. 中学生が村の暮らしと地域の歴史を地域へ入って調べることで、地域への関心を高めることができたこと。 3. 川と暮らし調査により、忘れられようとしている川と暮らしについて記録できたこと。
今後の展望	今回の事業に関わった会員も自治会関係書も、中学生に接した感想は好意的で今後に期待するという声がおおかたであった。中学校側も継続して実施し、地域との関係を深めることをキャリア教育の柱としたいという意向をもっている。継続する体制は築けたとして、課題はそのために必要な予算的裏付けをどうするかだと思いを巡らせている。

【実施団体の事業総括・感想等】

地域の歴史を次の世代に伝えることが難しくなっている現在、中学生が地域調べをすることに協力することで、直接伝える場ができたことは何よりうれしいことである。今まで模索しても得られなかったことであり、地域の力で生徒が育ってほしいという校長の願いがあつてのことであつた。中学校との連携を来年以降も継続したいものである。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

（企画政策推進室）

自分が住んでいる地域について深く知ることは、その機会が少なく難しいのが現状である。地域の歴史を知り、それを伝えたいと願う高齢者と中学校が、自治会等とも協力しながら、次世代を担う子どもたちに地域の歴史を伝えることは、地域資源の保存伝承につながるとても良い取り組みであると考えます。また、中学生が自ら地域の人とふれあい、地域をより深く知ることで、地域を誇りに思う気持ちも育まれると考えられる。今後も継続して取り組んでいただきたい。

（学校指導課）

本事業は、自ら課題を見出し、解決する態度を育成するとともに、地域人材を活用することで「地域に開かれた学校」の実現にも寄与している。学校指導課では、市立学校に前述の態度を育成するため、「調べる力育成プロジェクト」の名のもと、調べ学習を推奨している。本事業はその趣旨にも合致しており、大変よい学びの機会となっていると考える。香寺中学校においても、本事業を活用し、生徒が地域について主体的に学び、調べ、まとめて表現する場を設定しており、地域住民と協働して生徒を育成することができている。